

ヤコブ 1:1 神と主イエス・キリストのしもべヤコブが、国外に散っている十二の部族へあいさつを送ります。

ヤコブは自分をしもべと呼んでいます。これはとても興味深い事実です。というのも、このヤコブはヨセフとマリヤの息子、イエス・キリストと同じ母親から生まれた兄弟だからです。けれども、神と主イエス・キリストのしもべだと自分と呼んでいます。しもべは、主人に喜んでいただくことを目指します。しもべには自分の所有と呼べる物はありません。すべて持っている物は、主人のものです。

この考え方がどこから来ているのか見てみましょう。

申命記 15:12 もし、あなたの同胞、ヘブル人の男あるいは女が、あなたのところに売られてきて六年間あなたに仕えたなら、七年目にはあなたは彼を自由の身にしてやらなければならない。

申命記 15:16 その者が、あなたとあなたの家族を愛し、あなたのもとにいてしあわせなので、「あなたのところから出て行きたくありません」と言うなら、

申命記 15:17a あなたは、きりを取って、彼の耳を戸に刺し通しなさい。彼はいつまでもあなたの奴隷となる。。。

言うなれば、ヤコブの耳は刺し通されていたのです。

ヤコブは自らの権利を進んで放棄し、人生のすべてを神に捧げました。イエス・キリストを人生の主人とし、自分の人生は自分のものではないと見なしました。ヤコブをはじめ、使徒たちは喜んで自身をしもべと呼びました。私たちはどうでしょう。私たちの耳も刺し通されているのでしょうか。たくさんの人が、自分はクリスチャンだ、イエスが主であり救い主だと言います。けれども本当にそうでしょうか。

イエスは言われました。

ルカ 6:46 なぜ、わたしを『主よ、主よ』と呼びながら、わたしの言うことを行わないのですか。

またこのようにもおっしゃいました。

マタイ 7:21 わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです。

今日私たちが手紙を書いたとしたら、神と主イエス・キリストのしもべだと心から言えるでしょうか。

ヤコブはエルサレム教会の指導者となり、この手紙を紀元45年ごろに書いたとされています。ということは、この手紙が新約聖書最古の書簡ということになります。

ヤコブ 1:1 神と主イエス・キリストのしもべヤコブが、国外に散っている十二の部族へあいさつを送ります。

この手紙は、すでに、国外に散っていたイスラエルの十二部族のクリスチャン信徒に宛てられたものです。これは、エルサレムで迫害がすでに始まっていたことを指しています。

使徒7章には、イエスを信じる信仰のために最初の殉教者となったステパノのことが記されています。ヤコブはヨハネの兄弟です。十二弟子のひとりで、使徒12章でヘロデ王の剣によって殺されました。ですから、その手紙の冒頭でこのように言っているわけです。

ヤコブ 1:2 私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。

ヤコブは、クリスチャンがさまざまな試練に遭っており、その状況は変わらないであろうことも承知していました。ヨハネを除いては、ヤコブを含むすべての使徒が最終的にはイエス・キリストを信じる信仰のために殉教者となりました。実際、2000年以上経った今も、クリスチャンは試練や迫害を受けています。

イエス・キリストに従う決心をすればすべての悩みが消えて完璧な人生を送れるという幻想を抱く人も多いようですが、そうでしょうか。そんなことはありません。

マタイ 5:45b "...天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるからです。

つらい試練の日が続き、状況が悪化する場合があります。そんなとき、「どうして」という疑問が湧いてきます。

「神様、どうして私がこんな目に」

しかし、ヤコブの手紙は、さまざまな試練に「なぜ」会うかという出だしではありません。

むしろ、さまざまな試練に会う「とき」と言っています。試練が必ずやってくることをわかっているのです。

私たちの人生は、嵐の中か、嵐を抜けたところか、嵐の前の静けさにあるかと言えるでしょう。

今、試練の只中にあるという人はいますか。
最近、試練のときをやっと抜け出したという人はいますか。
それ以外の人はしっかり備えていますか。嵐は必ずやってきます。
ですから、なぜと問うより、来たときに備えることです。

試練がやってきたら、「どのようにして」耐えるでしょう。「どのようにして」それをこの上もない喜びと思えるでしょう。それはこのようにしてです。

ヤコブ 1:3 信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。

4 その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。

どのようにしてそれをこの上もない喜びと思えるでしょう。神がこの試練を用いて私を完全な者とさせてくださると信じて確信することによってです。

「苦は楽の種」ということわざをご存知でしょうか。クリスチャンにまさびの言葉です。苦勞によってクリスチャンは成長します。それをこの上もない喜びと思えます。神がすべてを益にしてくださることを信仰によって信じ、確信することによってです。例を挙げて説明してみましょう。

お腹が空いている人はいますか。
では、少々お待ちください。食べるものを差し上げます。
バターはお好きですか。はい、バター一本どうぞ。お召し上がりください。
バターだけではいやですか。
では、卵はお好きですか。
それはよかった。生卵ふたつあります。どうぞお召し上がりください。
でも、他のものと混ぜたほうがきつとおいしいですね。
では少々お待ちください。
他のものを出します。
これはどうでしょう。小麦粉1カップ。
パサパサして食べられませんか。
じゃあ、牛乳1カップもあります。
後から飲んだらどうですか。

まだお腹が空いていますか。
それなら、塩大さじ一杯あります。どうぞお召し上がりください。
塩はそのまま食べられませんか。
では、甘いメープルシロップもどうぞ。飲んでください。
甘すぎますか。

じゃあ、こうしましょう。この材料を全部、料理上手な人に渡します。その人が混ぜて焼いて、バターを塗って...バターとメープルシロップをのせたほかほかのホットケーキです。おいしそうですね。

私たちに与えられる試練のひとつひとつを使って、このようなことをしてくださると神が約束しておられるのではないのでしょうか。

ローマ 8:28 神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

すべてのこととは文字通り「すべてのこと」です。
人生におけるバターや小麦粉、卵や塩、それは良いときであり悪いときでしょう。そのすべてを働かせて、どのようにしてくださるのでしょうか。益としてくださるのです。

乾いた小麦粉がなかったら、ホットケーキはおいしくできあがるのでしょうか。

人生の乾季を経験していると思うなら、神がそれを益のために用いようとしてくださっていることを思い出してください。主を信頼して、主のなさるままにするなら、いずれ益となります。

この上もない喜びと思きましょう。

神は御座におられます。すべては神の御手の中です。神の子である私たちは、神の御手に人生を預けます。神の許可なしに私たちに何が起こることはあり得ません。神の予想外のことが起こることはありませぬ。サタンでさえ、神の許可なしに私たちに触れることはできないのです。（ヨブ記参照）

頭ではわかっていてもどうしたら実践できるのかわからないと思いますか。
人生で苦労や悩みが絶えないときに、どうやって喜びを見出すことができるのでしょうか。
失業して幸せでしょうか。ガンと宣告されて幸せでしょうか。家族が病気で幸せでしょうか。
もちろんそんなことはありません。幸せとは関係ないのです。

喜びと幸せとは同意語でないという認識が必要です。幸せかどうかは人生の状況に左右されます。

ソロモン王は、すべてのことに時があると語りました。

伝道者の書 3:4 泣くのに時があり、ほほえむのに時がある。嘆くのに時があり、踊るのに時がある。

幸せで笑っていた人が、次の瞬間には悲しくて泣くということがありえます。身近な人を失ったり、失業したりすれば、幸せでいつづけることはできません。ですから、幸福感は状況や人といった一過性のものに左右されます。一過性のものでありますから、今後もずっと続くという保証はありません。

一方、喜びは真の充足感です。それは主への信仰といった内面の要素から来るものです。神の助けを得て、試練に耐えるなら、結果として信仰が成熟し、強められます。

1ペテロ 1:6 そういうわけで、あなたがたは大いに喜んでいます。いまは、しばらくの間、さまざまな試練の中で、悲しまなければならないのですが、

1ペテロ 1:7 あなたがたの信仰の試練は、火で精錬されつつなお朽ちて行く金よりも尊く、イエス・キリストの現れのときに称賛と光栄と栄誉になることがわかります。

ヤコブ 1:5 あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます。

「どうしたらいいかわからない」と思ったことはありませんか。
誰でもそう思ったことがあるでしょう。

私は日本に来てからほとんど毎日そんなふうに思っています。

毎日いろんな選択を迫られますが、聖書にはっきりと答えの書かれていないことがたくさんあります。この仕事に就くべきかどうか。この学校に入るべきかどうか。この人と結婚するべきかどうか。

多くの場合、どちらがよいかわかりません。はっきり示されればよいのに、と私たちは思います。イエスかノーか白黒はっきりした答えを望みます。

士司記のギデオンのように羊の毛を置いて神の答えが示されたらよいのにと思ったりします。でも、そんなふうにはっきりした答えはたいてい返ってきません。そうすると、どうにももどかしくなります。

私たちはどうも、自分で考えられる限りの可能性をすべて考え、友人に相談し、頭の中でいろんなシミュレーションをして、それでもどうなるかわからないときに、やっとひざまずいて神に心から助けを求める傾向があるようです。

「主よ、私はどうしたらよいかわかりません。どうすべきか教えてください。」

神は何を望んでおられるのでしょうか。与えられた状況に信仰をもって踏み出すことをでしようか。信仰をもって立ち去ることでしょうか。または、その状況の中に信仰をもって踏ん張って忍耐することでしょうか。

神が私たちに望まれることを見分けるには、神の知恵が必要です。けれども、神に知恵を求めるときは心しなければなりません。神は必ず答えてくださるお方だからです。その答えは、自分の望まない予期せぬ答えかもしれません。

以前、私は日本のために何をすれば良いかと神に尋ねたとお話したことがあります。その答えは、エイミーとの結婚でした。当時私たちはただの友だちだったので、私にはまったくその意味がわかりませんでした。

神の知恵は、私たちや周囲の人から見れば、道理にかなっていないことである可能性があります。というのも、神はこうおっしゃるからです。

イザヤ 55:8 「わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、わたしの道は、あなたがたの道と異なるからだ。 --【主】の御告げ--

神は全体像を見ておられます。何が最善かをご存知です。その神を信頼する気がありますか。もしそうでないなら、祈り求める意味はありません。

10年前、神は、若者の働きの牧師としてフルタイムで働くよう私を召してくださいました。そのときのことを今も覚えています。私はカリフォルニアの公立高校の教師でした。仕事にも家にも満足でしたし、生徒のことが大好きでした。そんなときに、それをすべて捨てて神についていくようにと召されたのです。どうにかその道を避けて通ろうとしました。高校生と同じ時間帯で働いているのだし、今の職のままだでも放課後や週末にボランティアとして奉仕できるから、と牧師に話し、言い逃れようとしてしました。私を雇ってお給料をくれる必要はないし、今の職のままなら毎月十一献金もたくさんできるから、と。

けれども、神が私を召しておられる、すべてを手放すよう語っておられるという確信はありました。ただ、私自身に納得のいく話ではなかったのです。私の周囲の人にとっても同じでした。

でもこれは最高の決断でした。後悔することは一生ないでしょう。

しもべは主を信じて従わなければなりません。主が私たちの心に示してくださったことについて、私たちがどうしたかという申し開きをいつの日かしなければならぬ時が来るからです。

ヤコブもこのように言いました。

ヤコブ 4:17 こういうわけで、なすべき正しいことを知っていながら行わないなら、それはその人の罪です。

神は私たちが何を召して下さっているでしょう。

10年前、神についていくようにと私を召してくださいました。それに聞き従って本当に良かったです。以来、とても祝福されています。

神はあなたを何を召して下さっているでしょう。

「わからない」と答えますか。本当にわかりませんか。それとも、神が心に示してくださったことは分かっているけれど、それを実行することに不安があるのでしょうか。

わかっていることをやりなさい。そうすれば、やるべきことがわかってきます。

まず、自分に正直になることから始めましょう。

このようなすばらしい約束があります。

ヤコブ 1:5 あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます。

知恵が必要ななら、神に願い求めましょう。そうすれば、与えてくださいます。けれども、謙虚に自分の無力さを認め、自分の願わない答えであっても受け入れるという思いで神の御前に出なければなりません。プライドの高い人間にとって、これほど難しいことはないでしょう。

1 ペテロ 5:5b 神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです。

ヤコブ 1:6 ただし、少しも疑わずに、信じて願いなさい。疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。

ヤコブ 1:7 そういう人は、主から何かをいただけると思ってはなりません。

ヤコブ 1:8 そういうのは、二心のある人で、その歩む道のすべてに安定を欠いた人です。

神には私たちの願いに答える力があります。これを疑うなら、願い求める意味はありません。これはもちろん簡単なことではありませんが、神への信仰は完全な信仰である必要があります。神を疑ってははいけません。神に人生をささげておいて、何か悪いことが起こるとやっぱり返してください、と言うことはできません。神に知恵を求めておきながら、その答えが気に入らないからと言って自分の好き勝手してはいけません。神のみこころの内容によって従うかどうか決めるので、みこころを示してくださいという求め方はいけません。

私たちには献身と決心が必要です。主の守りに人生を委ねると決心し、主が守ってくださると信じましょう。

順風満帆の人生でなくても、この先どうなるかわからなくても、神に文句を言わないようにしましょう。「神様、どうなっているのですか。」「なぜこのようなことを許されるのですか。」

どこかで聞いたことがあるようなセリフではありませんか。イエスが弟子たちと舟に乗っておられたときの話を覚えていますか。

マルコ 4:37 すると、激しい突風が起こり、舟は波をかぶって、水でいっぱいになった。

マルコ 4:38 ところがイエスだけは、ともものほうで、枕をして眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして言った。「先生。私たちがおぼれて死にそうでも、何とも思われないのですか。」

マルコ 4:39 イエスは起き上がって、風をしかりつけ、湖に「黙れ、静まれ」と言われた。すると風はやみ、大なぎになった。

マルコ 4:40 イエスは彼らに言われた。「どうしてそんなにこわがるのです。信仰がないのは、どうしたことです。」

ヤコブは何と言っているでしょう。

ヤコブ 1:6 ただし、少しも疑わずに、信じて願いなさい。疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。

正直なところ、誰もが揺れ動きますし、疑います。けれどもそうなったときに、それを認めて告白し、神を信じられるよう助けてくださいと祈ることが大切です。

マルコ 9:23 するとイエスは言われた。「できるものなら、と言うのか。信じる者には、どんなことでもできるのです。」

マルコ 9:24 するとすぐに、その子の父は叫んで言った。「信じます。不信仰な私をお助けください。」

では先に進みましょう。

ヤコブ 1:9 貧しい境遇にある兄弟は、自分の高い身分を誇りとしなさい。

ヤコブ 1:10 富んでいる人は、自分が低くされることに誇りを持ちなさい。なぜなら、富んでいる人は、草の花のように過ぎ去って行くからです。

ヤコブ 1:11 太陽が熱風を伴って上って来ると、草を枯らしてしまいます。すると、その花は落ち、美しい姿は滅びます。同じように、富んでいる人も、働きの最中に消えて行くのです。

ヤコブは、富んでいる人についていくつか言いたいことがあるようです。この富んでいる人とは、富にとらわれている人のことです。

2章でヤコブは、教会の中で裕福な人を特別扱いする人を非難します。

ここでは、自分の富をひけらかしたり、特権を得ようとしたりする人に対して語っています。

率直なところ、誰でも富んでいる人になりたいでしょう。けれども、何に富むのでしょうか。お金ですか。お金が何をもたらしてくれると私たちは思っているのでしょうか。

世間の言い分は...

金が自由をもたらす

神のみことばは語ります...

金銭欲は人を金の亡者にし、破滅に導く可能性がある。キリストのみが真の自由をもたらす。(1テモテ6:7-10)

世間の言い分は...

金が安心をもたらす

神のみことばは語ります...

この世の富は不確かで、すぐになくなってしまう。(ヤコブ1:10)

本当の安心は、神を知り、神を信頼することにある。(エレミヤ9:23, 24; 1テモテ6:17-19)

世間の言い分は...

金が何より大切

神のみことばは語ります...

キリストと神の御国が何より大切(マタイ6:33; ピリピ3:7-10)

世間の言い分は...

金は力

神のみことばは語ります...

力は御霊に満たされることによって得る。(ACTS 1:8, 3:1-10)

世間の言い分は...

金は貨幣価値のみならず、私たちの人としての価値も左右する。

神のみことばは語ります...

私たちの価値は、神のおっしゃることによって決まる。銀行預金の残高によって決まるのではない。(ヨハネ3:16; エペソ1:3-14)

世間の言い分は...

金が成功をもたらす。

神のみことばは語ります...

成功は、神のことばを知り、それを実行することで得る。(ヨシュア1:8).

世間の言い分は...

金は選択肢を広げる。

神のみことばは語ります...

神こそが私たちに究極の選択肢を与えてくださるお方だ。(エペソ3:20).

世間の言い分は...

金は幸福をもたらす。

神のみことばは語ります...

金のもたらす幸福は一時のものである。長い目で見ると、金は「非常な苦痛」をもたらすものである。(1テモテ6:10)。

永続する喜びは、神を知ることによって得られる。(ヤコブ5:1-6; ヨハネ15:11; ヨハネ16:24)。

世間の言い分は...

金は私たちの報酬であり、所有である。それを貯めて、自分のために使いなさい。

神のみことばは語ります...

できるだけ多くささげよう。(マタイ6:19-24; 使徒20:35; 2コリント9:6-11; 1テモテ6:18)

持ち物はすべて神のものであり、神がご自由にできるものだ。私たちは神の所有物を管理しているに過ぎない。(詩篇24:1; ルカ19:11-27; 2コリント5:10)。

お金があるのは悪いことではありません。お金を良いことに使うこともできます。ただし、金銭に対する考え方に気をつける必要があります。パウロはこう言いました。

1テモテ 6:10 金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは、金を追い求めたために、信仰から迷い出て、非常な苦痛をもって自分を刺し通しました。

イエスもおっしゃいました。

ルカ 18:25 金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうがもっとやさしい。」

近頃私は、家計についてよく考えます。今後、私たち夫婦の必要を神がどのように満たしてくださるのかと思ったりします。カルバリチャペルのチャック・スミス牧師の話を読んで、とても励まされ、同時に自分の信仰について示されました。最後に、その話を皆さんに紹介したいと思います。

それは、チャック牧師が経済的に苦しかったときのことで、働きをしながら、妻子を養おうと頑張っていました。

あるとき、光熱費などの請求書が合計**416**ドル分ありました。(60年代のことですから、おそらくずいぶん金額だったことでしょう。)牧師の働きで得られる収入は週**20**ドルで、子どもの食費にも及びませんでした。日々赤字がかさんでいく中、どんなことが起こったでしょう。チャック牧師の言葉をそのままお読みします。彼は言います。

「もう終わりだ」と思いました。

「もうこれ以上、続ける意味もない。このまま赤字が増えるのをだまっけて見ているわけにはいかない。もう牧師の働きはやめて、どこかで仕事を見つけないと。どうしてこんなことに。」

その朝、私はすっかり気落ちしていました。とにかくこれで終わりだと思いました。もう牧師の働きなんてたくさんだと思いました。

そのとき、電話がなりました。それは長距離電話でした。

電話のむこうで「やあチャック、元気かい？」という声がします。

私は、「元気だよ。君はどうだい？」と答えました。

電話の相手はこう続けました。「昨日、君あてに手紙を出したから、知らせておこうと思って電話したんだ。速達で出しておいたから、今日には届くはずだよ。君に小切手を送るように、主から示されてね。」

私は言いました。「ハレルヤ！なんてすばらしいんだ。」

相手はこう言いました。「主から、**425**ドル分の小切手を送るように示されたんだよ。」

私の答えは「え？わお、うー！すごい！」でした。

話を終えて電話を切ると、私はすぐさま台所に走っていき、妻を捕まえて揚々と踊り始めました。もう大喜びで主を称えました。これほどの賛美は聞いたことがないというほどの勢いでした。

「神様、あなたはすばらしい。主よ、愛しています。やった！請求書全部払えるぞ！ああ、神様はすばらしい」

私は天にも昇るような気持ちでした。

しばらくして少し落ち着きを取り戻したころ、主が私に語られました。「何がそんなにうれしいのか。」私は言いました。「主よ、あなたはすばらしい、あなたを愛しています。あなたは良いお方です。愛しています。本当にすごいです。」

主はおっしゃいました。「あの人たちがお金を送ってくれるとどうしてわかるのだ？」

私は言いました。「神様、何をおっしゃっているんですか。ご冗談でしょう。どうしてわかるって、もう送ったって言うたじゃないですか。あの人たちは誠実です。あの人たちが約束するのですから信用できます。神様、あの人たちは本当にいい人ですよ。それで、確かに送ったと言うんですから、信じます。」

主はおっしゃいました。「なるほど、おもしろい。今朝あなたが起きたとき、私もあなたに約束を与えた。そのときは飛びはねて喜んだり、賛美したりしてはいなかった。苛立って、愚痴をこぼしていた。私があなたたちの必要を満たすという約束をしていたのに、そんな様子だった。今あなたは、人の約束を聞いてそんなに興奮して喜んでいる。どちらの言葉により重みがあるのか。」結局私は悔い改めて、神に赦しを乞わなければなりません。神のおっしゃるとおりだったからです。神の約束があるのに、私は落胆して悲しんでいました。

私たちには神のみことばがあります。神の約束をいただいていることを大いに喜ぶべきです。私たちは神の子どもですから、神がおっしゃったのなら、そのつもりをしておられるし、そのとおりになされると信じてことができます。

ピリピ 4:19 また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たしてください。

アーメンでしょうか。アーメンですね。
ハレルヤ！主をたたえましょう！